疥　癬

感染を広げないよう　早期の受診と対策を

赤いブツブツがおなかや脇の下に出て、夜眠れないほどかゆい……。こんな皮膚の症状に加えて、手首の内側の小指側、手のひら、指や指と指の間、肘、足首などに、ほんの少し盛り上がり、やや白い線状の発疹があったら、疥癬の可能性が高いと考えられます。

疥癬は、適切な治療を受ければ短期間で治ることが多い感染症です。疑わしい症状があったらすぐに専門医を受診しましょう。

監　修

国家公務員共済組合連合会
九段坂病院　皮膚科顧問
（動物性皮膚疾患外来担当）

大滝 倫子 先生
（おおたき・のりこ）

◉略歴
1963年、横浜市立大学医学部卒業。
1970年、東京医科歯科大学大学院修了（皮膚科専攻）。三井記念病院皮膚科医員、東京医科歯科大学医学部助手（皮膚科）、同講師、九段坂病院皮膚科医長を経て、2002年より現職。専門は動物性皮膚疾患。日本皮膚科学会、日本衛生動物学会、日本性感染症学会などに所属。

うねうねした線状の「疥癬トンネル」が特徴

疥癬は、ヒゼンダニという体長0・2～0・4㎜の目に見えない小さなダニが、皮膚に寄生して起こる病気で、ほとんどの場合、人から人へ感染します。年間の患者は10～15万人と推定されています。

疥癬には2つのタイプがあります。

大多数を占めるのは、ヒゼンダニの数が数10匹以下の**通常疥癬**です。健康な人もかかるタイプで、潜伏期間は1～2か月あります。主な症状は赤いブツブツと強いかゆみ、さらに**疥癬トンネル**と呼ばれる特徴的な皮疹です。赤いブツブツは頭と顔を除く全身にみられますが、特におへその周りや脇の下、太ももの内側などによく出ます。

疥癬トンネルはヒゼンダニのメスが卵を産むために皮膚の中に掘った横穴です。手首の内側で特に小指側、手のひら、指や指と指の間、肘、足首などに、ほんの少し盛り上がり、やや白い長さ数㎜から1㎝程度の、まっすぐあるいは曲がりくねった線状の発疹として認められます。もう1つの**角化型疥癬**は、ヒゼンダニの数が100万～200万匹と桁違いに多いタイプで、重い病気をもっていたり、ステロイド剤や免疫抑制剤を使っていたりなど、免疫力が低下している場合に発症します。感染力が非常に強く、まわりの人に感染する場合、通常疥癬に比較してより短い潜伏期間で発症することがあります。症状の特徴は角質の増殖で、垢が分厚くなったような皮疹が頭や顔も含めて全身にみられます。

感染の仕方も異なっています。

通常疥癬では、長時間の皮膚と皮膚の接触が原因になります。握手などで短時間触れるだけなら、まず感染の心配はありません。まれに、患者が使用した寝具や衣類をすぐほかの人が使うと感染することがあります。

しかし、角化型疥癬は短時間の接触でも、寝具や衣類を介した間接的な接触でも、皮膚から剥がれ落ちた垢から感染します。そのため、角化型疥癬の患者が同じ生活空間に1人いると、一気に感染が広がります。

通常疥癬は2回の薬物治療で治る

通常疥癬の治療には、ヒゼンダニを殺す飲み薬か塗り薬のいずれかを使います。初回治療後、1週間あけて2回目の治療をします。飲み薬は治療日の空腹時に1回内服します。塗り薬は塗り残しがないよう、首から下の全身に塗ります。この2回の薬物治療で若い人はほぼ全員、高齢者でも75％は治ります。治らない場合はさらに治療を続けます。角化型疥癬は飲み薬と塗り薬の併用で、塗り薬は顔、頭、頸部を含めて全身に塗ります。治療方法は通常疥癬と同じですが、高齢者の場合、治った後も6か月程度のフォローアップが必要です。

疥癬にかかるとほかの人にうつす感染源になるので、家族に患者がいる場合は日常生活に注意が必要です。通常疥癬なら、①長時間、皮膚と皮膚が直接触れないようにする、②同室で寝るときは布団を離す、③タオルなど皮膚に直接触れるものを共用しない、④患者に接した後はよく手を洗う――などを守りましょう。角化型疥癬なら、①個室で管理する、②洗濯物は別に洗う、③患者に接するときは予防着や手袋を着ける、④落屑を掃除機、粘着シートで掃除する――なども必要です。

疥癬には確立した予防対策がありません。本人のためだけでなく、感染を広げないためにも、できるだけ早く発見し、専門医の治療を受けることが大切です。

■ 通常疥癬と角化型疥癬の違い

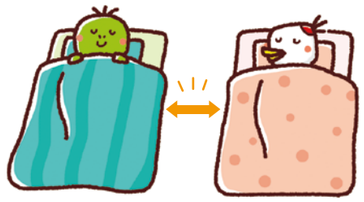
	通常疥癬	角化型疥癬
ヒゼンダニの数	通常 数10匹以下	100万～200万匹
患者の免疫力	正常	低下している
感染力	弱い	強い
主な症状	赤いブツブツ（丘疹、結節）疥癬トンネル	厚い垢が増えたような状態（角質増殖）
かゆみ	強い	不定
症状が出る部位	顔や頭を除いた全身	全身

（国立感染症研究所ホームページより一部改変）

家族が患者にいるときの対応（通常疥癬の場合）

① 長時間、皮膚と皮膚が直接触れないようにする

② 同室で寝るときは布団を離す



③ タオルなど皮膚に直接触れるものを共用しない

④ 患者に接した後はきちんと手を洗う

⑤ 家族に同様の症状が出たら、速やかに専門医の診察を受ける